



自動車リサイクル促進センター JICA 発行のソーシャルボンドに投資

～ 持続可能な社会の実現に貢献 ～

公益財団法人自動車リサイクル促進センター(所在地:東京都港区、代表理事:中村 崇 以下、「JARC」)は、日本国内における循環型社会の実現に関する各種事業を行い、そして全国の自動車ユーザーからお預かりした約9,394億円(2018年3月末時点)のリサイクル料金の管理・運用を行っている日本最大級の公益法人です。

JARCは、自動車が使用済みになるまでの間、長期にわたり、自動車ユーザーからお預かりしたリサイクル料金を安全かつ確実な方法で管理・運用を行うこととし、その運用対象資産は「国債」「政府保証債」「地方債」「財投機関債」としているところです。そして、この資金管理・運用を通じて、SDGsに関する持続可能な社会の実現に向け、更に社会貢献を推進するため、既存の各種事業を推進するとともに、今年度からESG投資のうち「E(環境)」に資するグリーンボンド及び「S(社会)」に資するソーシャルボンドに投資していくこととし、10月19日には東京都発行のグリーンボンドに投資を行っているところです。

本日初めて投資したJICA発行のソーシャルボンドで調達された資金は、その全額がJICAの実施する開発途上国の社会課題を解決するための融資に活用されます。主な融資対象は大規模インフラ整備事業や貧困削減、人材育成を目的としたプロジェクト等です。有償資金協力事業の案件については外部の評価者による事後評価が行われ、評価結果はJICAのウェブサイト上で公開されているところです。

JARCは、このESG投資の取り組みが日本国内における資源の有効な利用の向上及び環境の保全に取り組んでいただくきっかけの一つになればと考えており、今後も最大限ESG投資を行い、持続可能な社会の実現に向けて社会的責任を果たしていきます。

以上

➤ **自動車リサイクルシステムの概要**

国内では年間約 330 万台（2017 年度）の使用済自動車が発生し、2005 年 1 月に発足した自動車リサイクルシステムのもと、自動車メーカーや関連事業者などの自動車リサイクルの関係者が適正なりサイクルの取組を進めた結果、使用済自動車のほとんどがリサイクル。

クルマはこうやってリサイクルされるんです

ユーザーはクルマを買うときリサイクル料金を支払います。

ながーく大切に乘った愛車もいつかは使わなくなります。

ユーザーが使わなくなったクルマを引取業者に引き渡します。

クルマのほとんどがリサイクル！

金属を原材料に戻してリサイクルします。残ったプラスチックやゴムなども原材料に戻したり熱源として再利用します。

クルマのボディをシュレッダー機で破碎します。

使える部品を取り外して中古部品として使います。

フロン類を抜き取って破壊します。エアバッグ類を安全に取り外します。

リサイクル料金を使って処理する 3 物品について

（ユーザーが支払ったリサイクル料金で特別に管理する物品）

シュレッダーダスト

クルマから有用な部品や金属資源などを回収した後のクズ（プラスチックやゴムなど）をシュレッダーダストといいます。シュレッダーダストを更に原材料に戻したり、熱源として再利用します。

フロン類

カーエアコンに使用されるフロン類は、オゾン層破壊や地球温暖化など環境によくない影響があるので大気放出を防ぐ必要があります。フロン類を回収した後、高熱で燃やして無害化します。

エアバッグ類

エアバッグ類には爆発性のあるガス発生剤が使われているので、クルマのリサイクルでは安全性を確保する必要があります。エアバッグ類を回収した後、金属部分を原材料に戻してリサイクルします。

➤ **公益財団法人自動車リサイクル促進センター（JARC）とは**

自動車のリサイクル及び適正処理の促進に関する各種事業を行うことにより、資源の有効な利用の向上及び環境の保全に貢献することを目的とする公益法人。

所在地	〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館 11 階	
設立	2000 年（平成 12 年）11 月 22 日	
理事長	なかむら たかし 中村 崇	
自動車リサイクル法指定法人業務の主務官庁	経済産業省、環境省	
URL	https://www.jarc.or.jp/	

➤ **自動車リサイクルシステム全般のお問い合わせ先**

自動車リサイクルシステム コンタクトセンター

☎ 050-3786-7755 平日 9:00～18:00（土日祝日・年末年始を除く）

（メディア関係者様のお問い合わせ先）

公益財団法人自動車リサイクル促進センター
 広報・理解活動推進部
 電話：03-5733-7144